

第13回「黒岩知事との “対話の広場” Live 神奈川」

テーマ

超高齢社会を乗り越えよう！

第3弾：少子化対策から人口減少社会を考える

日時 平成26年11月13日（木） 午後6時30分～8時00分

会場 神奈川県庁 本庁舎3階大会議場

ゲスト ・ 齊藤 英和 氏

（国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 副センター長）

・ 白河 桃子 氏（少子化ジャーナリスト、作家、相模女子大学客員教授）

プログラム

■ 開会

■ 知事のあいさつ

◇超高齢社会と人口減少社会について

■ ゲスト・プレゼンテーション

・ 齊藤 英和 氏 「妊娠適齢期を意識したライフプランニングの薦め」

・ 白河 桃子 氏 「女性の活躍と人口減少社会」

■ 参加者の皆様と知事との意見交換

◇ツイッターで寄せられた意見の紹介

■ まとめ

◇知事からひとこと

■ 閉会

【お願い】

- ※ 携帯電話等は電源を切るかマナーモードをお願いします。
- ※ 会場の様子はインターネットで生中継を行います。あらかじめご了承ください。
- ※ 発言ご希望の方は挙手をし、指名されてからお話してください。
- ※ なるべく多くの方にご発言いただくため、発言は3分以内をお願いします。
- ※ 対話の広場の円滑な進行のため、テーマと異なる趣旨のご発言はご遠慮ください。
- ※ 発言の際は参加者の皆様に聞き取りやすくお話いただくようご配慮ください。
- ※ 会場受付でお渡ししたバッジはお帰りの際に必ずお返しく下さい。
- ※ アンケートの回答にご協力をお願いします。

<ゲストコメンテーターの紹介>

○ 齊藤 英和（さいとう ひでかず）氏

（国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 副センター長）

専門は生殖医学、不妊治療。日本産婦人科学会・倫理委員会・登録調査小委員会委員長。長年、不妊治療の現場に携わっていく中で、初診される患者の年齢がどんどん上がってくることに危機感を抱き、大学などで加齢による妊娠力の低下や、高齢出産のリスクについての啓発活動を始め。白河桃子氏との共著で「妊活バイブル」、「『産む』と『働く』の教科書」がある。内閣府の「少子化危機突破タスクフォース」座長。

○ 白河 桃子（しらかわ とうこ）氏

（少子化ジャーナリスト、作家、相模女子大学客員教授）

婚活、妊活など女性たちのキーワードについて発信する。山田昌弘中央大学教授とともに「婚活」を提唱。婚活ブームを起こす。女性のライフプラン、ライフスタイル、キャリア、男女共同参画、女性活用、不妊治療、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティなどがテーマ。東大、慶応、早稲田などに齊藤英和医師とともに「仕事、結婚、出産、学生のためのライフプランニング講座」をボランティア出張授業。講演、テレビ出演多数。著書：「女子と就活 20代からの『就・妊・婚』講座」、「妊活バイブル 晩婚・少子化時代に生きる女のライフプランニング」、「婚活症候群」、最新刊「『産む』と『働く』の教科書」など多数。

第1弾、第2弾ではこんな話が出ました！

超高齢社会を乗り越えるための高齢者に対する取組として、高齢者が支えあう場や地域の保健・医療・福祉サービスの拠点となる「健康団地」の試みや、新聞販売組合等による「地域見守り活動」、身体機能や介護を支える「生活支援ロボット」などが話題となりました。

今回は、超高齢社会は少子化社会でもあるという点に着目し、若い世代にもご参加いただき、出産・子育てと社会での活躍の両立などについて意見交換します。

第11回 黒岩知事との“対話の広場” Live 神奈川（6月2日開催）

＝超高齢社会を乗り越えよう＝

「（第1弾）健康団地で元気な高齢者が地域を変える」 結果概要

※ 第1弾の概要・参加された皆様のご意見等をお知らせします！
なお、詳細については、神奈川県ホームページに掲載しております。

～以下、概要～

【知事コメント】

圧倒的な超高齢社会をどう乗り越えていくか。そのモデルができれば世界に発信できる。神奈川県はさまざまな取組を進めている。

【ゲスト事例発表】

(1) 県営浦賀かもめ団地自治会の取組について（支えあい活動）

発表者：具志堅吉治氏（県営浦賀かもめ団地 自治会長）

・自治会で実施している「青空市場」、「コミュニティカフェ」などの取組が、高齢者の引きこもりや孤独死の防止につながっている。

(2) 県住宅供給公社の団地再生の取組について

発表者：猪俣篤雄氏（神奈川県住宅供給公社 理事長）

・公社の若葉台団地での「職」と「食」をコンセプトにした、高齢者の健康と若年者層の流入を狙った団地再生の取組の紹介。

【意見交換】

○ 自治会では見回りする側も高齢化が進んでいる。1日数回の訪問は困難なので、電話で確認する方法を取り入れているが、他にも通信を利用した案はないか。

○ 団地内に医療機関を誘致し、経営がうまくいく状態をつくってもらえれば、団地内の訪問医療などが進み、高齢者にとって良い状態が提供できる。

知事 発想を逆転し、高齢者が多く住んでいる団地に医療と介護を持ってくれば、医者が団地内を病棟回診のように回り医療を届けられ、住んでいる方の安全・安心がはかれる。「健康団地」と名付けていろいろな団地の実情に応じて試行錯誤を始めている。

○ 健康団地を作り上げるには、自治会の機能を保つことが大切。自分の団地には外国人が20数%住んでおり、自治会機能を保てるか心配。

（裏面へ続く）

(表面からの続き)

知事 神奈川県には約 160 カ国、16 万人の外国人が住んでいる。この方たちも同じ様に高齢化する。コミュニティの一員として迎える策について知恵を絞りたい。

- 自分たちは高校で社会福祉部の部活動をしている。高齢者どうしの支え合いでは限界があると思う。ボランティア活動したい高校生と高齢者が交わるコミュニティがあっても良いと思う。

【まとめ】

- コメンテーター

大江 守之氏（慶応義塾大学総合政策学部 教授）

- ・ 高齢者の割合が 50%を超える限界集落化は、都市部でも起こり得る。
- ・ ある集落では、遊びで「大学」と名付けた集まりを作り、「炭焼き学部長」とか「田植え学部長」といった肩書きを付けて楽しんでいる。そこに東京の若い女性が参加し、ホームページなどを作成しサポートすることで、限界集落は消滅するどころか、遊びを通じて人々のつながりが広がっている。
- ・ 自分の得意なものを持ち寄って遊ぶ関係性ができれば、そこで何か新しいことをやる力が生まれる。楽しみながら関係性をつくり、笑いが生まれ、健康にもなる可能性があるので、遊びの種を探して欲しい。笑いと遊びのある健康団地。医療だけでなく大切なこと。

知事 明るい超高齢社会にして、健康で長生きしてもらいたい。高齢者は人材の宝庫であり、どう活かすかが重要。団地の空きスペースで人々が交流できる場があれば、若い人も集まるし、多世代が住むこともある。触れ合うだけでパワーが伝わり、「楽しい」と笑いが生まれる。そういう団地に再生していきたい。

【終了後のアンケートの意見より】

- 子育て世帯や若者を呼び込み、多世代交流できる団地にして行くことが大事。
- 世代を超えた行事（自身の子や孫との交流のみを重視するのではなく）を企画しても良いのでは。
- まず、かもめ団地と、近くの町内の子ども会などが、盆踊りやお神輿等で交流を深め、カフェ等でも交流し、団地周辺をにぎやかにしたら良いと思う。
- 若い人が子どもを生きやすい社会にすれば良い。保育士など福祉関係職の給料を上げることから始まると思う。保育所を増やし、若い人が子持ちでも働けるようにしてから、高齢化社会を乗り越えて行くべきだと思う。

=以上=

第12回 黒岩知事との“対話の広場” Live 神奈川（7月7日開催）

＝超高齢社会を乗り越えよう＝

「（第2弾）“人”の支えと“技術”の活用」 結果概要

※ 第2弾の概要・参加された皆様のご意見等をお知らせします！
なお、詳細については、神奈川県ホームページに掲載しております。

～以下、概要～

【知事コメント】

超高齢社会を乗り越えるためには支え合いが欠かせない。「人の力」によってどのように支えるか、「技術」によってどんなサポートができるのかを考えたい。

【ゲスト事例発表】

(1) 地域見守り活動に関する協定と実際の見守り活動について

発表者：佐藤日出雄氏（神奈川県新聞販売組合 常任相談役）

佐藤勇人氏（読売センター座間 所長）

・販売店による日々の新聞配達時、異状に気づいた場合には関係機関に連絡するなどし、孤立死・孤独死を防いだ実績がある。

(2) 福祉分野におけるロボットの役割について

発表者：山本圭治郎氏（神奈川工科大学 先進技術研究所 所長）

・安く大量普及できる生活支援ロボットを開発中である。移乗介護、移動支援、排泄支援、認知症の見守りなどニーズは多岐に渡っており、それぞれ研究が進んでいるが、支援の対象が人なので、倫理問題や優しさも重要だ。

【意見交換】

○ 人間の重心は中心とは限らず、前に傾くのか右に傾くのかといったぶれにロボットは対応できるのか。

山本氏 現在の映像から傾きを判断する技術で十分対応できる。

○ サークル活動をすることが、結果的に積極的な見守り活動になっている。

○ 運動サークル活動を行っているが、健康にもつながるメリットがある。

知事 一人暮らしの人がサークル活動に出てくれば、お互いに見守ることにつながる。コミュニティを作ることが大切だ。

○ 県営団地の空き部屋を活用して、近隣の人たちも巻き込んでサロンのようなものを立ち上げたい。

- 高齢者と障害者の盲・聾の人たちの引きこもりが多くなっていると感じる。特に視覚障害者は町を歩くのが危険で、家から出なくなる。色を判定して音声で知らせる機械があり、目が見えない方でも洋服の色などを知ることができる。こうした機械を神奈川県から発信していけたら良い。
- 脳から出る電気信号を読み取って身体の動きを支援するロボットがあるが、逆にカメラやマイクから映像や音声を脳に送って、障害者の方に役立てることはできるのか。

山本氏 脳から出てくる電気を読み取ることはできるが、逆に目的のところに電気を送るのは難しい。

- 大学で介護ロボットの研究をしているが、実際に使う介護者が研究に携わっていないのが問題だ。高齢者や介護者の意見も取り入れて、高校生も巻き込んでロボット・コンテストができれば面白いと思う。
- 高校に小中学生を集めてロボットの話をしたりしているが、同様に高齢者の方と一緒に新しいロボットを考えるのも良いと思う。
- 高校では相撲ロボットを中心に開発しているが、暴力的で良くないか。

山本氏 相撲ロボットの技術も生活支援ロボットに応用できる。使いようである。

- これから結婚、子育てを考える世代だが、高齢者の方が子育てをサポートしてくれるとありがたい。また、ロボットによって高齢者が動けるようになって、子どもとの交流の場に来られるようになれば素晴らしいと思う。
- ロボットを積極的に活用している施設や健康寿命を伸ばす努力をしている団体などに何らかのインセンティブを与えられないか。

知事 インセンティブは重要な要素で、何ができるか検討中である。

- 介護ロボットを開発している人に介護の現場を見てほしい。学生の頃から見ることによって、開発意欲が強くなると思う。バリアフリーになっていない小さな施設の小さな段差をクリアできるロボットがあれば良いと思う。

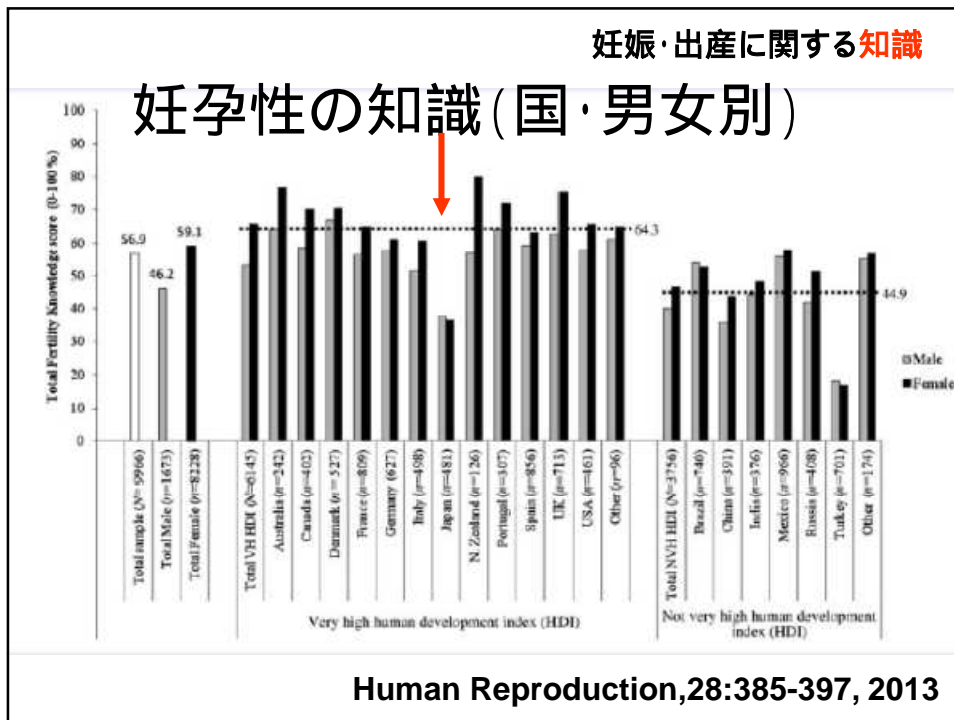
【まとめ】

知事 人の支えとロボット技術の融合が重要だ。ロボットが役立つには、ユーザーと開発者が融合することが大事だという課題も提示された。神奈川県は超高齢社会が全国でも早くやってくる。これを乗り越える新しいモデルを神奈川で作りたい。

14-11-13
 第13回黒岩知事との
 “対話の広場”Live神奈川

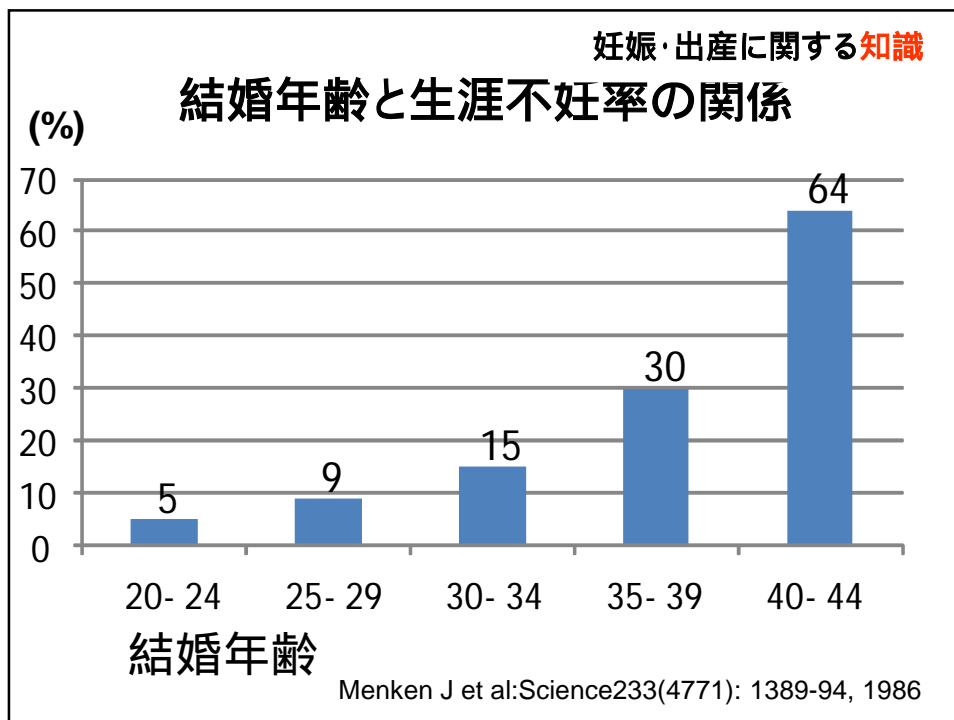
妊娠適齢期を意識した ライフプランニングの薦め

国立成育医療研究センター
 周産期・母性医療診療センター
 齊藤英和



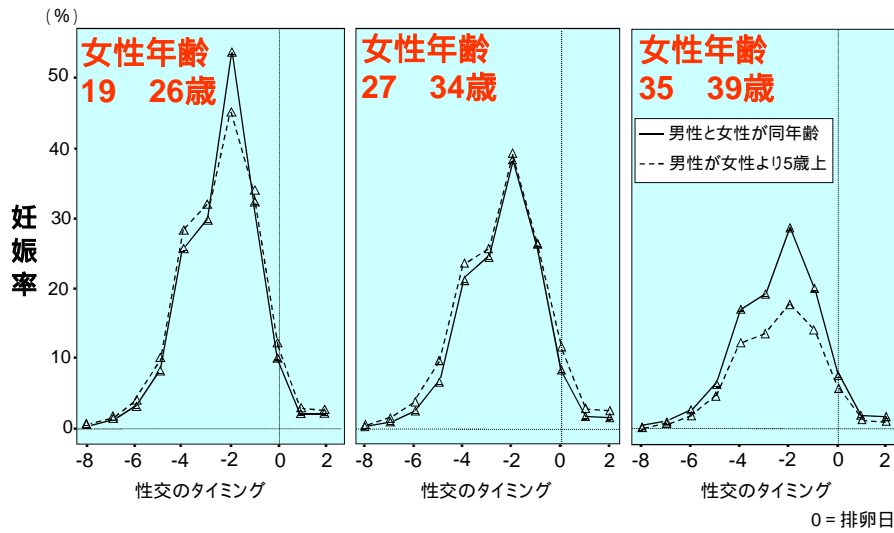
妊娠出産に適した時期は？ 妊娠に適した時期を知らない

1. 女性の加齢と
妊娠する能力の変化
2. 母体の加齢と
妊娠後の合併症
3. 男性の加齢と
妊娠する能力



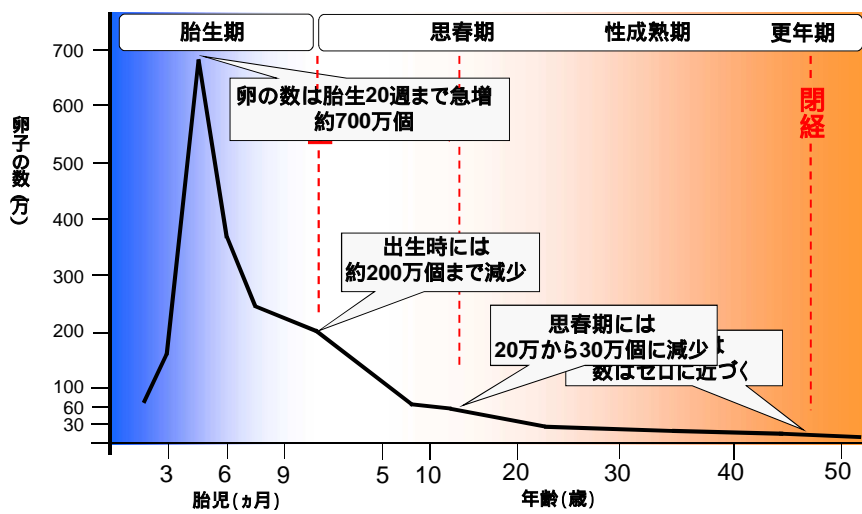
妊娠・出産に関する知識

年齢別にみる排卵と妊娠率の関係



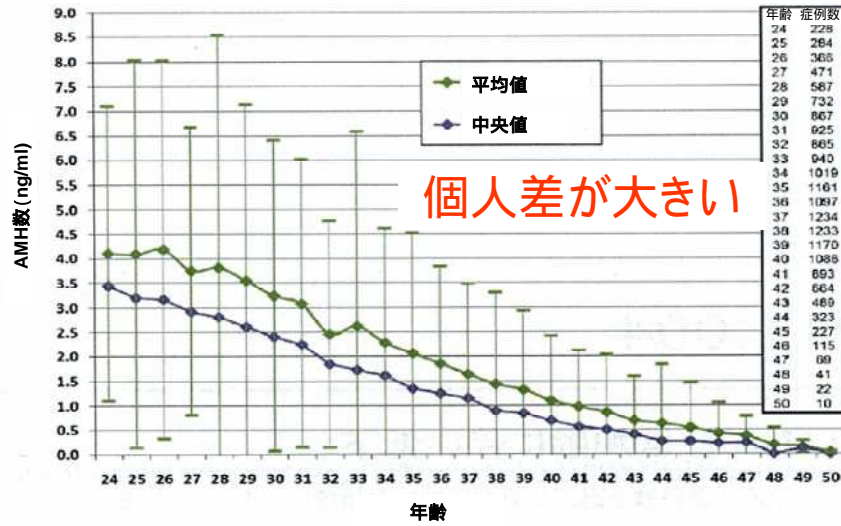
(Human Reproduction Vol.17, No.5 pp. 1399-1403, 2002)

卵子の数の変化



(鈴木秋悦 ヒトの受精のタイミング 1982)

年齢とAMH値



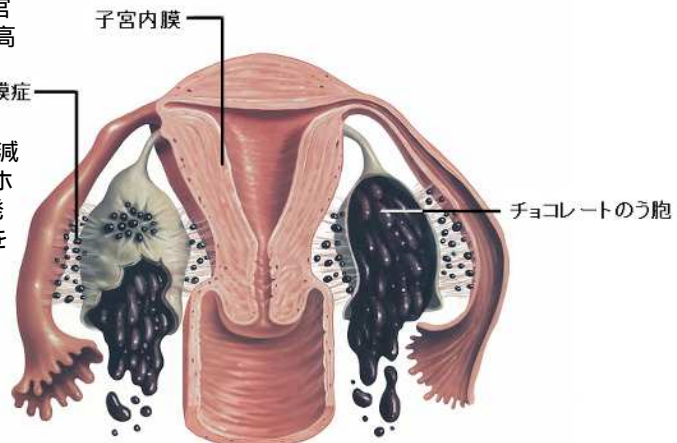
(Fertil Steril. 2011 Feb;95(2):747-50)

子宮内膜症

子宮内膜の発生原因として、月経の逆流説がある。初経からの月経回数が多い高齢者では、子宮内膜症になる可能性は高くなる。

妊娠出産は月経回数を減らすとともに、妊娠時のホルモン変化は、すでに発生していた子宮内膜症を治療する。

子宮内膜症



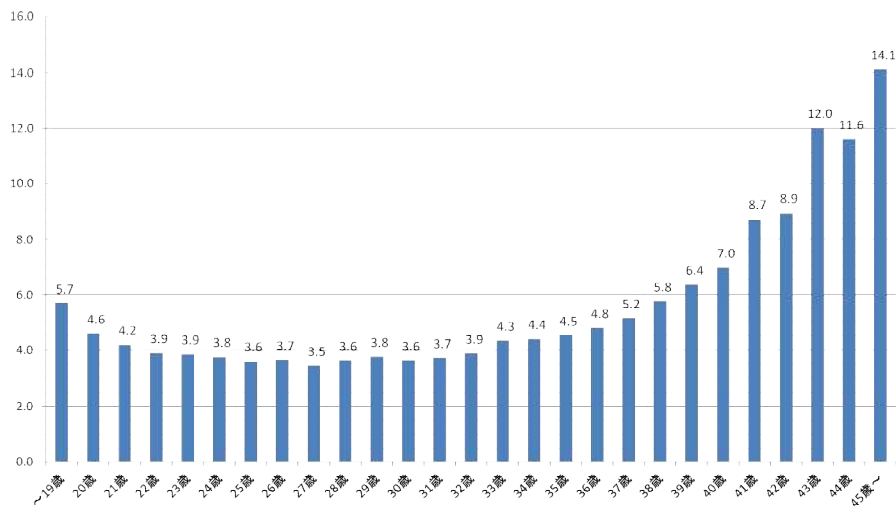
妊娠出産に適した時期は？ 妊娠に適した時期を知らない

1. 女性の加齢と
妊娠する能力の変化
2. 母体の加齢と
妊娠後の合併症
3. 男性の加齢と
妊娠する能力

年齢別にみた周産期死亡率(出産千対)

(平成19 - 23年の平均値)

単位 件数/出産千対

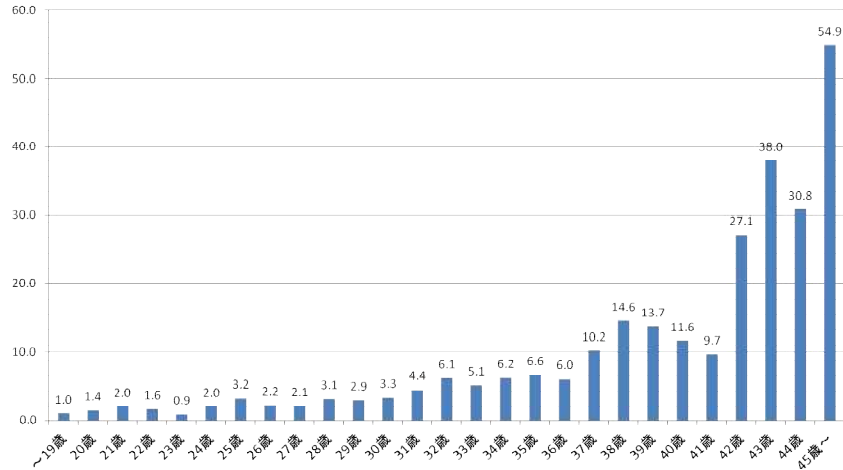


注：1) 周産期死亡率は、一年間の周産期死亡数(妊娠満22週以後の死産数+早期新生児死亡数(生後1週間未満の死亡数))を一年間の出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)で割ったもの(出産千対)である。

(厚生労働省人口動態統計の特別集計を元に母子保健課にて作成)

年齢別にみた妊産婦死亡率(出産十萬対) (平成14 - 23年の10年間の累計)

単位 件/出産十萬対



注: 1) 妊産婦死亡率は、妊娠中又は妊娠終了後満42日未満の死亡で、妊娠の期間及び部位には関係しないが、妊娠もしくはその管理に関連した又はそれらによって悪化したすべての原因によるものをいう。ただし、不慮又は偶発の原因によるものを除く。
2) 妊産婦死亡率は、年間妊産婦死亡数の累計(平成14～23年)を年間出産数(出生数+妊娠満12週以後の死産数)の累計(平成14～23年)で割ったもの(出産十萬対)である。

(厚生労働省人口動態統計の特別集計を元に母子保健課にて作成)

10 女性の年齢と子どもの染色体異常のリスク

母の年齢	ダウン症の子が生まれる頻度		何らかの染色体異常をもつ子が生まれる頻度	
	出生千対	出生千対	出生千対	出生千対
20	1/1667	0.6	1/526	1.9
25	1/1250	0.8	1/476	2.1
30	1/952	1.1	1/384	2.6
31	1/909	1.1	1/384	2.6
32	1/769	1.3	1/323	3.1
33	1/625	1.6	1/286	3.5
34	1/500	2.0	1/238	4.2
35	1/385	2.6	1/192	5.2
36	1/294	3.4	1/156	6.4
37	1/227	4.4	1/127	7.9
38	1/175	5.7	1/102	9.8
39	1/137	7.3	1/83	12.0
40	1/106	9.4	1/66	15.2
41	1/82	12.2	1/53	18.9
42	1/64	15.6	1/42	23.8
43	1/50	20.0	1/33	30.3
44	1/38	26.3	1/26	38.5
45	1/30	33.3	1/21	47.6
46	1/23	43.5	1/16	62.5
47	1/18	55.6	1/13	76.9
48	1/14	71.4	1/10	100.0
49	1/11	90.9	1/8	125.0

資料: Hook EB (Obstetrics and Gynecology 58:282-285, 1981)
Hook EB, Cross PK, Schreinemachers DM (Journal of the American Medical Association 249(15):2034-2038, 1983)
を元に母子保健課にて作成

妊娠出産に適した時期は？ 妊娠に適した時期を知らない

1. 女性の加齢と
妊娠する能力の変化
2. 母体の加齢と
妊娠後の合併症
3. 男性の加齢と
妊娠する能力

男性の加齢と精子の質の劣化

	40歳未満	40歳以上	両群の差
・患者数	107	41	
・精子濃度 ($\times 10^6/\text{mL}$)	95 ± 6	99 ± 58	無し
・精子運動率(%)	61 ± 14	58 ± 17	無し
・正常精子率	8 ± 2	7 ± 4	無し
・精子遺伝子の 断片化(%)	12 ± 8	17 ± 13	有り

J Assist Reprod Genet, On line 01 June, 2013

妊娠出産に適した時期は？

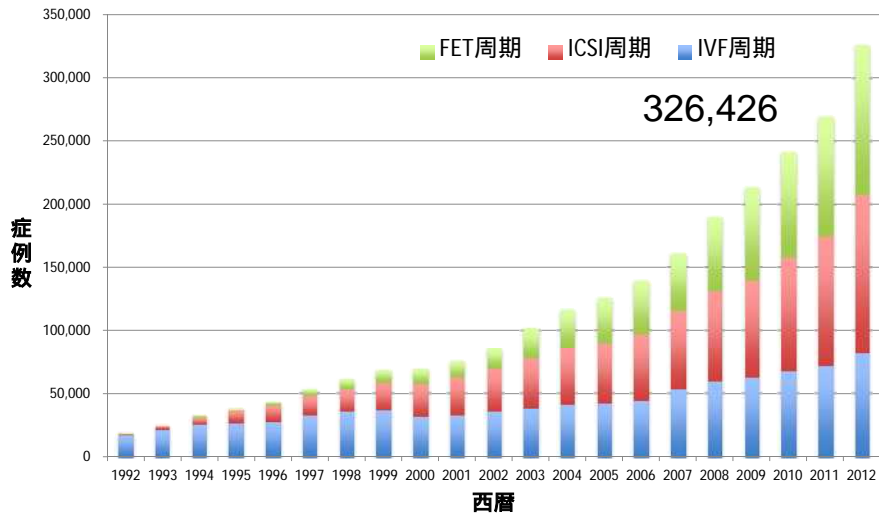
ヒトは男女とも加齢に伴い妊娠する能力が減弱し、また、妊娠中や分娩時のリスクや出生児のリスクが増加する。

妊娠出産適齢期は20代。

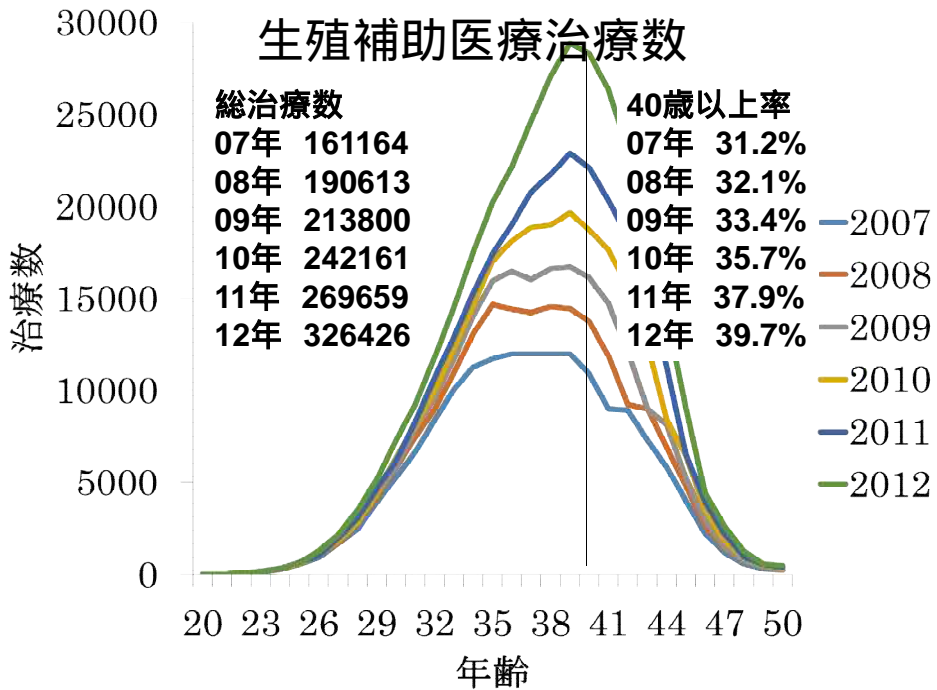
しかし、この知識知らない人多い

体外受精などの不妊治療は
万能ではない

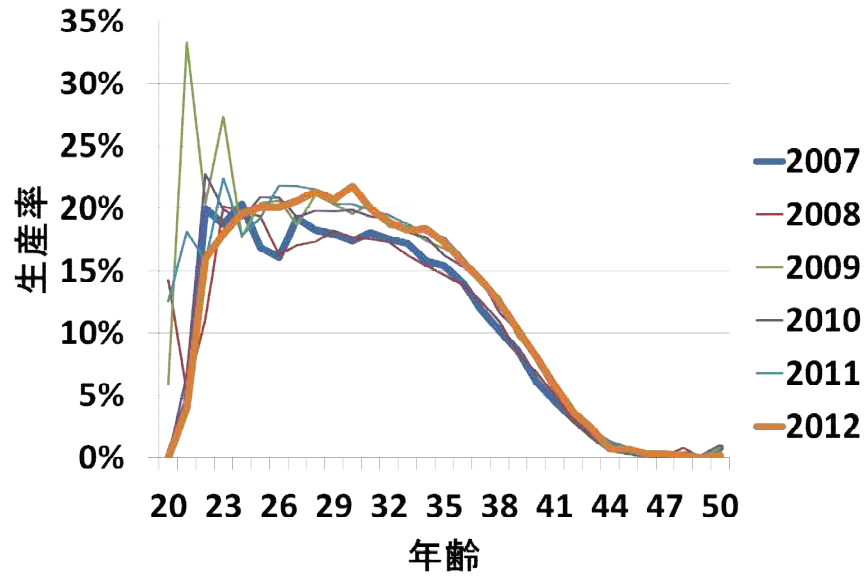
年別 治療周期数



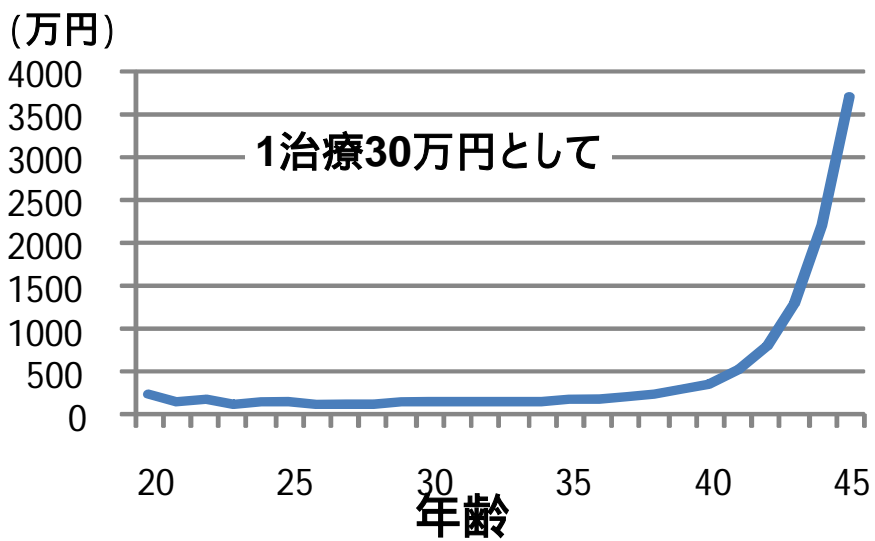
生殖補助医療治療数



年次別治療開始周期あたりの生産率

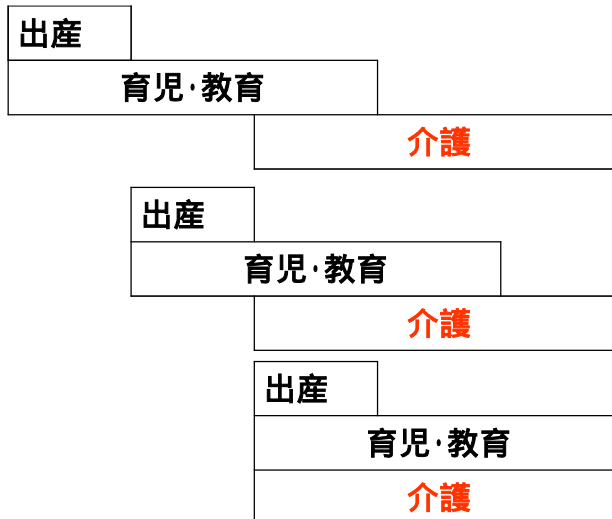


ART1見出生にかかる費用(2011)



人生における家庭内での仕事

20代 30代 40代 50代 60代 70代



自分の人生設計は？

医学的観点から提言

不妊治療等の医学の発展があるから、いつでも妊娠できると考えないこと
妊娠・出産等に関する正しい医学的な知識を知り、自ら、ライフプランを設計できるようにすること

20代に安心して出産・育児を選択できる社会制度の急速に確立すること